

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 11 時 00 分）

---

◎議案第 20 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第 6、議案第 20 号 平成 27 年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第 1 号）についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第 20 号は、平成 27 年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第 1 号）についてであります。

詳細は担当課長をして説明します。

（企画観光課長 山本 公君 提案理由説明）

○議長（稲葉昭宏君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○2 番（渡辺文彦君） これは決算ではないもので、あくまでも予定の数字ということなんでしょうけれども、これで見ると総体的に売上が落ちているわけですね。

ページ数でいくと、参考資料の 11 ページのところの利用収益を見ていただきたいんですけど、これを見ると全体的に収益が落ちているわけですね。そういいながら、まつぎ荘の利益は改善されているという表現がされるわけですが、その辺の絡みでわからないんですけども、その辺を説明していただきたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） 当初予算に対しましては、減というふうになっている補正を出させていただいていますけれども、人数におきましては 2 万 1700 人という見込みを立てているものが、それをクリアできるだろうということ。ちなみに前年 1 万 9777 人というようなことでございまして、2000 人くらい増えているような状況。当然それによって売上も上がりまして、前年 2000 万円位のマイナスだったかなと思いますけれども、それが今回マイナス 830 万円ということで、1200 万円位改善が図られているということでございますので、予算に対しては、確かにそうかもしれないですけど、前年の状況に比べて改善が図られているということでございます。

○3 番（長嶋精一君） 相当好転しているというふうに考えています。これは、理由というのは

外部環境の好転、それと白井さんをはじめとした的確な指導ですね。これは非常に大きかったというふうに思います。ただし、やっぱり赤字が、前よりも小さいながらも赤字になっているということ、それと主要総資本の9億5000万円の中の2億円くらいをやっぱり食っちゃっているということですね。これはやっぱり改めていかなければまずいと思います。

それで、私は前から言っているんですけども、せっかくここまでいい形になった。要するに、最終決算がプラスマイナスゼロであったら、これはもう利益計上と同じなんです。減価償却が5000万円近くあって、利息も払って、それからゼロという形が直近の目標だと思うんですね。

せっかくここまできて、私は惜しかったなと思うのは、前から言っていました先月の状況、数字でとらえた状況を翌月の3日までにはわかるようにしないと、それに基づいて、これは戦略チームみたいなチームを作ってね。トップは町長ですよ、理事長ですから中心にね。ここまできているから、あと4か月は特に経費を絞り込もうじゃないか、ぜがひでも収支をゼロにしようじゃないかという戦略的なことができたはずだと思うんですね。その点、私はせっかくいい形できたにも関わらず、こういうふうな状態になったというのは、非常に惜しいと思っているんですが、町長、いかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 白井さんにも中に入っていたこともありますし、支配人、副支配人また振興公社の局長が3人でいろいろこれからのまつぎ荘の・・・、いろいろ検討をして、それなりの・・・、最初は、25年は3600万円の赤字が、26年が2000万円、27年度が1300万円、今年度は800万円、もうちょっと少なくなると思うんですけども、来年、振興公社は指定管理3年目になるわけですけども、たぶんゼロになると思うんですけども、順調に進んでいるわけで、それなりに皆さんやっていると思うわけでございます。

それで、こんなことを言っただけですけども、長嶋議員は宿泊施設検討委員会の委員で、その中でいろいろ話し合うわけですけども、その中でこういう・・・、議場で・・・。その中で言ってもらいたい・・・、いつも聞いていますので、ここで、議場でやるべきではないと思うわけです。

○企画観光課長（山本 公君） ただいま町長の方からもありましたけれども、できるだけ早く状況がわかれば、次の手が打てるというようなことは確かにそうでございます。なかなか3日というわけにはいかないという部分もありますけれども、当然まつぎ荘としては、今年度のどういう戦略で臨んで、どういう取り組みをしていくんだというようなことは、年度当初にやって、それを職員に伝えて、毎月打合せ、経営改善の打合せをしているところでございますの

で、それらを、白井さんも入っていただいて、いろいろアドバイスをしていただいているという部分もございますので、それらをより充実させて、よりお客さんが利用していただけるような形にしていきたいと思います。

○3番（長嶋精一君） 町長の方から、その委員会で発言したからこの本会議で必要ないじゃないかというように言いましたけれども、それは非常に間違った考えだと思います。

私は、どうしても委員である以上は、まつぎき荘に利益を上げてもらいたいという熱意で言っているわけです。当然町長は理事長ですから、その辺は真剣に取り組んでもらいたいという意味を込めて。それと批判ばかりするんじゃないで、努力していますよと、よくなっているんじゃないですかと言っているわけですよ。だから、惜しかったということ言っているわけですよ。それはわかってください。とにかく、まつぎき荘というのは、民間の企業、旅館とか、そういったのと違ったアドバンテージをもっているわけですよ、2つ。固定資産税を払わなくていい、それともう一つは非常に低金利で・・・今の時代は低金利ですけども、その度を超えたような安い金利で借りているわけですよ。そういうことを理解しながら、ぜひがんばっていただきたいなと私は思います。以上です。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（渡辺文彦君） この売上見込みに対して若干前年に比べて伸びていることは、数字でわかるわけですけども、一人あたりの客単価の推移はどうなんですかね。その辺をちょっと教えてください。

○企画観光課長（山本 公君） 宿泊料でいきますと、26年度が1人5621円、今年度は5593円ということで、若干ですけども今年度の方がちょっと低いということです。

○2番（渡辺文彦君） ぼくがこの宿泊単価を確認した理由は、今どこも安売りなんですね、施設が。おそらくどこを見てもわかるんですけども、宿泊料金・・・旅行者の宿泊に落とすお金が高額の方は1泊5万円とか6万円とか、そういうところを利用している。かたや1万円以下というところが多くなってきているわけです。そこの安いところでまつぎき荘がお客さんの取り合いをやっているわけですよ、基本的には。

そういう状況の中で、町にもやっぱり同じような利益体で商売をやっている方がいるわけですね。そうするとその、町にくる利益、本来ならば町のほかの施設に入られるお客さんがまつぎき荘に取られているということもあるのかなと思うわけですね。

そう考えると、やっぱり松崎のまつぎき荘の料金を基本的には上げる方法で利益を出さなければいけないというのが、ぼくの考え方なんです。下げて競争して利益を上げましょうとい

う考えだと、基本的にまつぎき荘の使命が果たせない。元々まつぎき荘は高度成長期の旅行事業に対して安い料金で宿泊を提供するというで出てきたわけですけど、今の安い料金の宿泊設備はいくらでもあるわけですね。その中で、同じような土俵の中で戦おうということ自体が根本的にもう方向違いだなと私は思っているわけです。

それに対して、今、町のまつぎき荘の方々の考え方は、とにかくいろんな安売りの企画ばかり作っているわけですよ。そういうことに対して違和感を感じるんですけども、いかがですかね。

○観光施設管理係長（舩津直樹君） 確かに伊豆まつぎき荘につきましては、元々民宿との競合をしないということで、建替えに伴って料金を7000円程度から1万円程度まで上げたということがございます。ただ、いま松崎町にお越しいただけるお客様がだいぶ少なくなっていて、やはり堂ヶ島のホテルなんかでも値引価格をして集客をしていると。そこと対抗するには、やはりある程度の値引価格というのがなければ、お客さんが来ていただけないという中で、いま黒字にする、赤字を改善するというを第一に値引価格をうっているところがございます。

そもそも民宿のお客様と公共施設のまつぎき荘のお客様が全く一緒かという、やはり客層は違うというふうにも認識しています。

いずれにしても、伊豆まつぎき荘を多くの方に知っていただいて、伊豆まつぎき荘に一度泊ってみたいと思えるために値引価格を実施していますので、将来的には、やはり値引価格からサービスの向上での誘客に結び付けていきたいと考えています。以上です。

○2番（渡辺文彦君） 過日、まつぎき荘で・・・、ぼくは料理人をやっていますので、料理人関係のつきあいでいろいろな情報交換があるわけですけども、過日、まつぎき荘で実質メニューを作っている板前と話をする機会があったわけです。

その中で、どうしても質を上げられないんだと、そういう課題があるんだということを盛んに言っていました。私もこれはいろんな情報から確認しているわけです。そういう質を上げられないような状況の中で、営業していてもやはり安売りの営業しかできないんだと・・・。それだと基本的に、今は利益が上がっているかもしれないけれども、おそらく最終的に、いま2億円以上の借金もそろそろこれは埋まっていけないんじゃないかと私は思っているわけです。もっともっと利益を上げる体質、まつぎき荘の中のそのものの体質を変えていかなければいけないんじゃないかと・・・、これは補正とは関係ない議論かもしれないですけども、その辺を含めて考えていかないと、利益を上げる体質にはなっていないのかなと思っています。

○観光施設管理係長（舩津直樹君） いま料理の質が上げられないということでございましたけ

れども、そもそも25年度から大きく改革をしているところは、料理の原価率のアップということですね。それまでは、40パーセントを切る38パーセント程度で料理を出していたわけですが、現在は40を超える44パーセント近くまでいっているような状況で。ただ、その質を上げられないというところは地元からの仕入れとか、よそから取ればもっと安い単価で入ってくるのもっといいものが提供できるとか、そういうことなのかもしれませんけれども、伊豆まつぎ荘においては地域の活性化というところもやっぱり視点に置いていますので、できるだけ、地元からの仕入れを優先しているというところがございます。

いずれにしても、また現場の方の板前さんとも相談をしまして、何を変えたら質が上げられるのか、そこら辺について聞き取りをして改善をしていきたいと思っておりますので、ご理解をお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（渡辺文彦君） 調理場に関して言うならば、確かに原価率を上げればそれなりのものができるということは私も理解できます。当然その中で地元の業者を使って若干経費が上がっていくということに対しても私は理解しています。

ただ問題は、じゃあ、例えば1人の職人が抜けたら、あとフォローできる人間がないという現状があるわけですね。それを何とかしない限りはだめだとぼくははっきり言いたいんですけど、あまり細かく追及するわけにはいきませんので、現場の人間のこともありますから。

だからその辺を・・・、組織の見直しを本当に・・・、サービスも含めてやっていただきたいなと・・・。そうしないと、本当に利益の上がる体質にはならないと思います。

○企画観光課長（山本 公君） 当然いろいろ、当然お金のことも考えながらやっていかなければならないという部分はありますし、職員の体制につきましては、振興公社の中で、今まつぎ荘は43人位だったかなと思いますけれども、当然その学ぶ体制も考えながらやっていかなければならないかなと思いますので、それは町長が理事長ということでもありますので、その理事会、公社の中でもそれは相談をしていっていただきたいと思います。

○5番（藤井 要君） 去年からでしたか、正職員を増やしたというような関係がありましたよね。そして、ちょっと私の記憶がありませんけれども、営業利益的にはどのくらい上がってきたのかということと、それで職員のモチベーションを上げるということで正職員に3名位増やしたんですけれども、その関係で全体的に上がってきているのか。

そしてこれは、なぜ800万円位の・・・、ということになりますと返済もかなり減りましたよね。先延ばししたということで、借入を低金利ということで・・・、そのようなところをちょっ

とお聞きしたいと思いますけれども。

○企画観光課長（山本 公君） 営業利益の関係ですかね。27年度1月末の利益累計ですと、2億4000万円、前年の2億2600万円ということで、収入の方につきましては。

費用につきましては2億5814万円、前年が1億9700万円ですから若干当然費用も増えているということになりますけれども、差し引いた額でいきますと先ほど申しましたように800何某という数字になっていますので。1月末の利益でいきますと前年よりは・・・、行政報告の中でもご説明したかと思うんですけれども、950万円くらいの改善がされているということでございます。

それから正規職員に替えることによってモチベーションというんですか、やる気をもってもらうというようなこともあるわけですが、白井さんに入っていて接客の仕方あるいはいろんなプランの検討ですとか、そういったものも進めて、自分たちでやはりやってみようという思いをそれぞれにもってもらえるようなことで進めているところでございまして。なかなかまつぎ荘を知っていただかないということもあるものですから、いろんな先ほど言いました値引きのプランなんかもあるわけですが、そういうものですとか営業活動ですとか、そういうものを今やっているところでございますけれども。なかなかすぐに議員さんに言われたように、プラマイゼロになっていけば非常によかったわけですが、そこまですぐにいいという部分は確かにありますので、あと残り、指定管理の年数は来年度まで一応3年間ということですので、精いっぱい取り組んでまいりたいと考えています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○5番（藤井 要君） 営業担当ということではなかったですけども、結構営業してがんばるというようなことを言っていましたけれども。その中で前に、営業に行くには、よそに行くには、ちょっとこれじゃあ費用が少なかったじゃないかなんていうことを言った覚えがあるんですけども、その点はあれですか、結構遠くの方へと営業を・・・、まあ、決算が出ていないですけども、費用的にもがんばったんですかね。

○企画観光課長（山本 公君） 営業活動につきましては、27年2月くらいまでの結果ですけども一応10回ほど行っています。群馬、埼玉、圏央道の関係で、そういったものの関係で群馬、埼玉の方ですとか、あるいは昭和町なんかの関係がありまして、山梨の方へ行ったりとか、あるいは共済の関係のセールスですとかお願いですとか、そういったものも行っていますし、あるいは旅行業者の関係、大阪、愛知の方にも出向いて活動はしています。26年よりはちょっと少なかったかなという気はしますけれども、ただ、「旅行へ行こう」という雑誌の中で、松崎町

をPRしているという部分もありますし、副町長が県から来ていただいているということの中で県の職員の方、共済関係ですかね。そういう方を非常に誘致していただいている。まつぎき荘に泊まっていただくように手配をしていただいていますので、それらのいろんな活動を続けています。

また、併せて体験の関係ですとか、あるいは身障者の関係の部屋もあるものですから、そういったプランですとか、そういったものも加味しながら、できることをやっているという状況でございます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○8番（土屋清武君） 7ページですけれども、度忘れしたものですから。未収金が2300万円になっていますけれども、これは3月の末に宿泊したお客さんが翌日になるわけですけれども、4月に入って支払等があるわけですけれども、そのほか消費税の関係が今年より消費税があるのかな。それらを含めて・・・あるのか。クーポンも若干・・・その辺のちょっと内訳を教えてください。

○企画観光課長（山本 公君） 未収金の関係ですけれども2300万円ということで、最終的な見込みということになりますので、1月なんかの状況はちょっと入れて説明を・・・、1月の時点の状況なんかも入れながらいきますけれども。クーポンなんかの関係で10万円とか、カード決済の関係で200何十万とかということがあったりとかします。

クーポンですと、2週間から1か月位期間がかかるとか、あるいはカードですと、DCカードですとかJCBカードですとか、そういったものの関係の未収になっている部分があるとか、あるいは預金として公社の方に持っている部分があったりというようなことで、それがこちらに入ってきていない部分がありますので、そういった部分を含めてというようなこととなります。

○観光施設管理係長（船津直樹君） すみません。未収金の消費税というものについては3月、下半期分の消費税分については未収金としてこの中に入っていますけれども、特に税務署に支払う分の消費税については未払金の方に計上されますので。そういうことです。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

（発言する者なし）

○議長（稲葉昭宏君） 質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○8番（土屋清武君） 議案第20号ですけれども、町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」の補正予算（第1号）ですけれども、この関係につきまして賛成するものであります。

今回の補正でみますと、今までね、その前ですか、この数年間の実績等を比較しますと、今年度は若干赤字はありますが、これも減価償却5000万円と、それらの経費を持ちましても、このような改善をされてきたわけです。

ぜひこれを続けて、来年度においては、ぜひプラスマイナスゼロというような決算を願うものであります。以上でございます。

○議長（稲葉昭宏君） これをもって討論を終了します。

これより議案第20号 平成27年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第1号）についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（稲葉昭宏君） 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

午後1時まで休憩します。

（午前11時38分）

---